

インフォメイトしょ

【特集】

最新の医療を目指して～呼吸器内科～

リハビリテーション科のご紹介

予防健診センターが
人間ドック健診施設の認定を取得しました

「コード・ブルー」
アナフィラキシー小児救命シミュレーションを開催中

平成28年度 患者満足度調査結果のお知らせ

病院駐車場が利用しやすくなりました

喘息の検査と治療

喘息では、基礎研究の進歩により病態が解明され、新たな検査方法や治療薬が開発されています。検査では、呼気中の一酸化窒素を測定することによって、喘息に対する治療を実施しています。また、手術的治療として、肺切除術や気管支鏡による狭窄部の拡張術などを行っています。

気管支鏡検査と治療

気管支鏡検査では、病变部の観察はもちろのこと、内視鏡で観察しながら病变部の一部を採取する直視下生検、レントゲン透視下に行う経気管支生検、気管支擦過細胞診、さらに気管支肺胞洗浄等を実施しています。また、超音波を気管支鏡と組み合わせることで、レントゲン透視下のみならず超音波でも病变を確認することができます。さらに超音波を搭載した気管支鏡により、従来の気管支鏡では到達できなかった縦隔病変に対しても安全に組織が採取できます。

さらに超音波を搭載した気管支鏡により、従来の気管支鏡では到達できなかった縦隔病変に対しても安全に組織が採取できます。気管支鏡を用いた治療では、気道狭窄に対するステント留置、良性の気道狭窄に対する気管支拡張術、アスピルギローマに対する空洞内への抗真菌剤注入、手術のできない難治性気胸に対する気管支塞栓術などを実施しています。

手術可能な肺がんでは、術後再発を抑えるため、化学療法を呼吸器外科と連携して積極的に実施しています。また、手術のできない局所進行がんでは、放射線科と共同して放射線療法と抗がん剤による同時放射線化学療法を行い、治療を実施しています。4期肺がんに対する薬物療法は、従来の抗がん剤治療に加え、がん細胞の遺伝子解析に基づいて行われる分子標的治療、さらに、近年目覚ましい進歩をみせる免疫チェックポイント阻害薬による免疫療法があり、これらの治療法を組み合わせることで、これまでにない治療効果が得られるようになってきています。

呼吸器には、いろいろな病気がありますが、どんな病気であっても元気で楽しく長く生きられるように、少しでもお手伝いができるようになります。日々治療しています。そのためには、最新の医療技術や治療法の導入

が求められます。このようにして、地域社会に貢献することを目指します。

肺がん治療

手術可能な肺がんでは、術後再発を抑えるため、化学療法を呼吸器外科と連携して積極的に実施しています。また、手術のできない局所進行がんでは、放射線科と共同して放射線療法と抗がん剤による同時放射線化学療法を行い、治療を実施しています。4期肺がんに対する薬物療法は、従来の抗がん剤治療に加え、がん細胞の遺伝子解析に基づいて行われる分子標的治療、さらに、近年目覚ましい進歩をみせる免疫チェックポイント阻害薬による免疫療法があり、これらの治療法を組み合わせることで、これまでにない治療効果が得られるようになります。日々治療しています。そのためには、最新の医療技術や治療法の導入

Vol.15
July
2017

最新の医療を目指して～呼吸器内科～

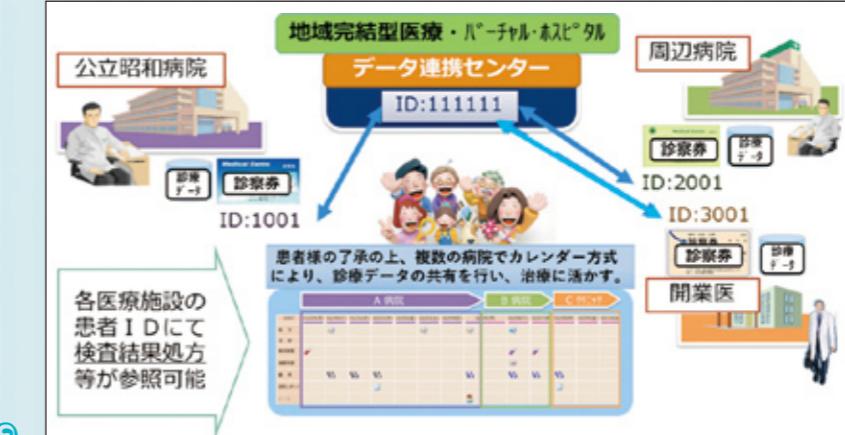
呼吸器内科部長 岩崎 吉伸

皆さんは「2025年問題」という言葉をお聞きになったことがありますか？世界一の高齢化が進行しているこの日本。西暦2025年には、団塊の世代（昭和24年生まれ）の方々が75歳以上となり、2千万人を超えることで、国民の5人に一人が75歳以上となります。これによって、病気にかかる医療と暮らしにかかる介護の需要が急激に増加し、病床不足や人手不足など病院や施設だけで医療・介護を担うには限界があります。大きな政策転換が必要となっています。

2025年に向けた地域の医療・介護の対策を検討し、病床の機能分化と連携を進めるため、平成28年度中に全都道府県で「地域医療構想（医療計画）」が策定されました。当院では、その一つの取り組みとして「地域完結型」の医療体制の推進を行っています。「地域完結型」の医療とは、公立・民間などの経営母体に関係なく病院やクリニックなどが、それの特長を活かしながら役割を分担し、地域の医療機関が全体で1つの病院（バーチャル・ホスピタル）の機能を持ち、切れ目の無い医療を提供していくというものです。

2025年に向けた地域の医療・介護の対策を検討し、病床の機能分化と連携を進めるため、平成28年度中に全都道府県で「地域医療構想（医療計画）」が策定されました。当院では、その一つの取り組みとして「地域完結型」の医療体制の推進を行っています。「地域完結型」の医療とは、公立・民間などの経営母体に関係なく病院やクリニックなどが、それの特長を活かしながら役割を分担し、地域の医療機関が全体で1つの病院（バーチャル・ホスピタル）の機能を持ち、切れ目の無い医療を提供していくというものです。

これまで当院は、「地域医療連携室」が地域の医療機関との連携を深めて参りましたが、今後の医療介護連携（地域包括ケア）も見据え、今年度末にはICT技術（情報通信技術）を活用した「病診連携システム」を導入し、周辺医療機関に拡大させていく予定です。（下図参照）



公立昭和病院は2025年問題に取り組みます

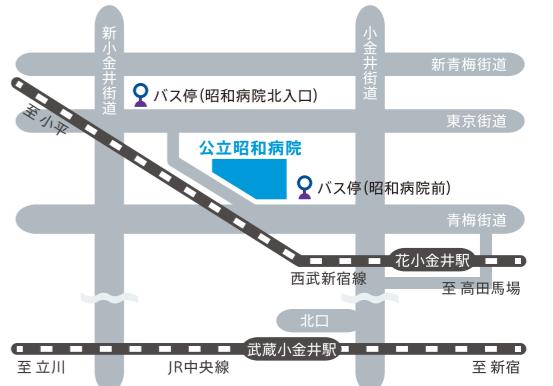
地域医療連携室だより！

地域医療ネットワークの構築

これまで当院は、「地域医療連携室」が地域の医療機関との連携を深めて参りましたが、今後の医療介護連携（地域包括ケア）も見据え、今年度末にはICT技術（情報通信技術）を活用した「病診連携システム」を導入し、周辺医療機関に拡大させていく予定です。（下図参照）

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、西東京市の7市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に応えています。

Access



公立昭和病院 kouritu-showa.jp

〒187-8510 東京都小平市花小金井8-1-1
tel.042-461-0052 fax.042-464-7912

【発行】公立昭和病院 【編集】広報委員会

リハビリテーション科のご紹介

リハビリテーション科

当院のリハビリテーション科では、入院患者さんが一日も早く自宅や社会へ復帰されますよう、急性期を担うリハビリテーション(リハビリ)部門として、主治医からのリハビリ依頼に対し、その日のうちに開始できるよう努めています。

リハビリから見ての注意点やどのくらいの日常生活が自分でできるか、自宅に帰るにはどのような問題が生じうるかなど必要に応じ回診にも同行しながら患者さんの状況を評価し、「リハビリティーション総合実施計画書」を作成して、主治医や病棟看護師、医療ソーシャルワーカーなど14を超える科と他職種との情報交換を行うカンファレンスで治療の方向性を確認しています。

当科では、医師、理学療法士(OT)、作業療法士(PT)、言語聴覚療法士(ST)の計34名が在籍しています。PTは、病気やけがなどによって日常生活に支障をきたした方々に対し、歩行などの移動能力や寝返り、起き上がりなどの起居動作の回復を図ります。OTは、上肢・手指機能を中心とした食事・更衣・整容などの日常生活動作や高次脳機能障害などに対するリハビリを行っています。STは、脳血管疾患で起る失語症や、その他の疾患でも起こる言葉の話しへくさ(構音障害)のある患者さんに對して発声・発話練習を行い、「コミュニケーション能力の向上」を図ります。また、食べ物の飲み込みにくさがある方に対しても、嚥下(えんげ)練習を行い、食事が食べられるよう支援しています。



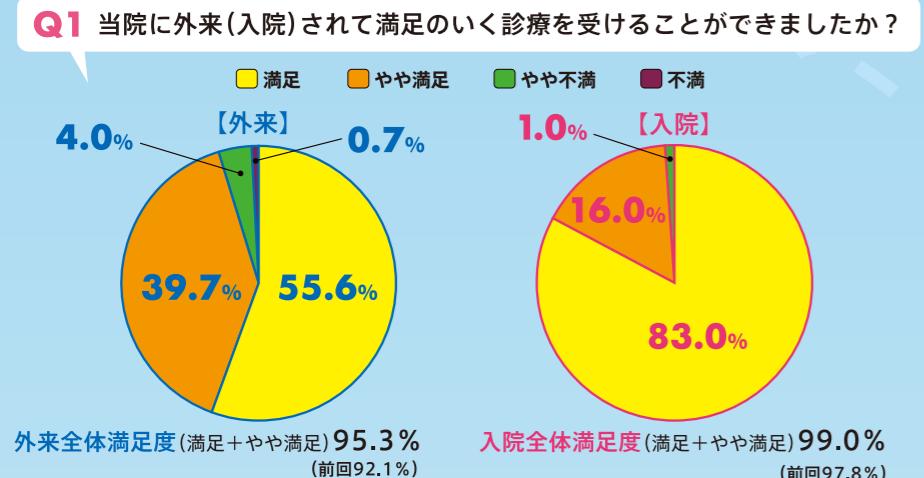
平成28年度 患者満足度調査結果のお知らせ

当院では、平成29年3月に外来・入院患者の皆さんを対象とした患者満足度調査を実施し、このたび、調査結果をとりまとめました。そのうち全体的な満足度と職員の接遇に関する項目についてご報告いたします。(左図参照)

今回の調査では、前回(平成27年度)の結果と比較して、ほとんどの評価が向上

しましたが、一方で、待ち時間に対する不満や設備に関する要望など、数多くの貴重なご意見をいただきました。

調査にご協力いただきました皆さんにお礼申し上げるとともに、調査結果を踏まえ、対応が可能なご要望から改善に取り組み、引き続き、構成市住民の皆さんから信頼される病院を目指してまいります。



Q2 職員の態度は非常に好感がもてるものだった。

【外来】			【入院】		
対象	今回	前回	対象	今回	前回
医 師	94.7%	91.9%	医 師	99.0%	97.5%
看 護 師	96.7%	94.1%	看 護 師	99.0%	97.2%
事 務 職 員	95.7%	91.5%	事 務 職 員	96.3%	96.9%
その他の職種	95.0%	94.2%	その他の職種	97.9%	96.8%

○○% = 強くそう思う+そう思う
強くそう思う+そう思う+そう思わない+全くそう思わない

外来調査 調査期間: 5日間／配布枚数: 2,337枚／回収枚数: 2,001枚／回収率: 85.6%

入院調査 調査期間: 10日間／配布枚数: 229枚／回収枚数: 198枚／回収率: 86.5%

*他の項目を含めた平成28年度患者満足度調査結果(概要)につきましては、当院ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



駐車場事前精算機

正面出入り口付近の総合案内前に、駐車場事前精算機を設置しました。駐車料金のお支払いに便利なクレジットカードの他、SUICA、PASMOなどの電子マネーに対応しており、高額紙幣での支払いも可能になりました。また、当院北側の外來者用駐車場の舗装工事を実施し、出車時の安全性と利便性の向上を図りました。



病院駐車場が利用しやすくなりました

施設係



病院北側駐車場



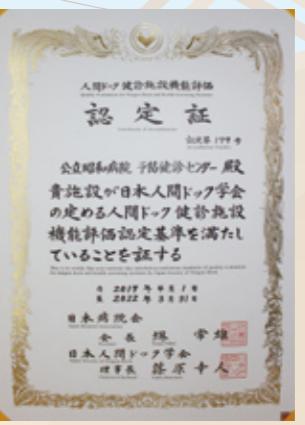
アナフィラキシー補助治療剤の注射手技を体験する参加者

2007年(平成19年)に初めて人間ドック健診施設の認定を取得した当院の予防健診センターは、このたび、2回目の認定(更新)を取得しました。人間ドック学会の評価基準に基づく審査を受け、第3者の委員会によって総合的に最終評価が行われます。

具体的な審査は、事前の書類審査とともに訪問調査者が来院し、「施設運営の基本的体制」「受診者の満足と安心」「人間ドック健診の質の確保」など、104の項目に基づいて実地調査が行われます。評価基準は、時代に即した質の高い審査を行うために5年ごとに改定されており、現在、全国で351施設(東京都内で59施



認定盾



認定証

設が認定されています。
人間ドック健診施設の認定証と認定盾(左写真)が交付された当院は、今後も、より良い施設を目指してまいります。

予防健診センターが人間ドック健診施設の認定を取得しました

予防・健診科



2007年(平成19年)に初めて人間ドック健診施設の認定を取得した当院の予防健診センターは、このたび、2回目の認定(更新)を取得しました。人間ドック

健診施設の認定とは、人間ドック・健診施設機能評価と呼ばれるもので、人間ドック健診を実施している施設が、地域における予防医学のリーダー的存在として活動し、受診者が安心して健診を受けられることを目的に、公益社団法人日本ドック学会の評価基準に基づく審査を受け、第3者の委員会によって総合的に最終評価が行われます。

2007年(平成19年)に初めて人間ドック健診施設の認定を取得した当院の予防健診センターは、このたび、2回目の認定(更新)を取得しました。人間ドック

健診施設の認定とは、人間ドック・健診

補助治療剤の正しい注射手技、小児の心肺蘇生、AED(自動体外除細動器)の操作等を実習形式で進め、講習終了後は、当院オリジナルの技能認定証を交付します。受講者は、講習で学んだ知識等を各施設で普及・啓発し、救急搬送の体制を整えるとともに、保護者との連携のもと緊急時に備えます。

※講習会への応募方法等詳しい内容は、当院のホームページをご覧ください。